

## 日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 稲葉勝利

## 1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東北西ブロック
歩行区間詳細	出発点:五里合漁港
	ゴール地点:五能線 道の駅はちもり
実施期間	2022年10月3日(月)~10月7日(土)
全歩行距離	71.5km

## 2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	77	5	12期
2					

## 3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	10/02	逗子→東京駅(夜行バス)→	0km	稲葉	
2	10/03	秋田駅(電車)→男鹿駅(バス)⇔ 男鹿半島入道崎	0km	同上	
3	10/04	男鹿駅(電車)→栗本(バス)→谷地中~ 五里合漁港(中継点)~砂丘温泉ゆめろん	18.0km	同上	
4	10/05	砂丘温泉ゆめろん~能代めんホテルミナミ	20.2km	同上	
5	10/06	能代めんホテルミナミ~八森駅(電車)→能代駅	20.0km	同上	
6	10/07	能代駅(電車)→八森駅~岩館駅~道の駅 はちもり~岩館駅(電車)→能代駅(夜行バ ス)→	13.3km	同上	
7	10/08	→池袋→逗子	0km	同上	
合計			71.5km		

## 4. 参加費

参加者延べ日数 1×5

参加費合計 500円

## 5. 費用概算

交通費(往:東京(夜行バス)→秋田、復:能代(夜行バス)→池袋) 23,365円

宿泊費(一部夕食、朝食、含む) 25,000円

飲食費等(含む土産1737)

7,030円

合計 55,395円

## 6. 歩行の詳細

10月02日(日) 晴

22:50 東京(夜行バス) →

リクライニングシートに身をゆだね、およそ2時間毎にあるドライブインで、トイレ休憩をしながら、自宅並みの睡眠がとれた。

10月03日(月) 曇り 11, 191 歩

→9:12 秋田駅(電車) 9:34→10:16 男鹿駅(バス) 11:23→12:09 別邸つばき(乗合タクシー) 12:12→

12:27 入道崎(乗合タクシー) 14:27→14:42 別邸つばき(バス) 14:50→15:37 男鹿駅

秋田駅での乗り換え時間は24分あったが駅到着予定時間の5分前になっても、窓の外にはあまり人家も見えず、多少心配になったが、2分遅れで到着。一安心。

当初男鹿駅から、男鹿半島を一周して、能代までの歩行を計画した。以前、秋田県に在住の21期生和さんに県内の歩行を依頼したことがあり、直前になって、今回予定したコースの前半を8月に完了したとの連絡が入った。既に乗車券の入手や宿泊所の予約をしてしまったので、一部のホテルのキャンセルや宿泊数の変更をするだけで、同一日程で、前の中継点以降、次の中継点までの歩行に変更した。結果的に余裕のある日程となり、初日は男鹿半島の観光にあてることにした。

荷物の一部を駅前の今晚宿泊するホテル諸井に預ける。入道崎には別邸つばきまでは16人乗りの小型バスで、その後は乗合タクシーに乗り継ぐ。地元の方が6人ほど乗車していたが、乗り継ぎ所で私以外1名となり、その方も途中で下車し、最後は一人になった。男鹿駅から、入道崎までの運賃は200円。自治体からの援助があるのだろうが超格安。

生和さん(奥様)のメールによれば、このコースは起伏に富んでおり、予想以上に時間が掛かり、予定した場所まで到達できなかったとのことであったが、確かに歩行では大変だったろうと思われる道を車で楽々入道崎まで行く。入道崎の近くなると広々とした台地が広がり、刈り入れ直前で黄金色が鮮やかな稲穂が先日の暴風雨の影響だろうか、みな倒れている。入道崎は休日でも観光客はまだらで、食堂が空いていないかもしれないので、弁当を用意した方が無難であるとの助言を頂いていた。確かに観光客は自家用車やオートバイで来た客がわずかにいるだけで、観光地と思われないほど閑散としている。店は7軒あるが3軒は閉鎖して居り、残りの店も一部は14:30には店じまいをしていた。

帰りのタクシーは事前予約制で、乗り継ぎ時間が2時間あった。持参した弁当をもって、灯台付近の草原の花を探しながら、周遊したり、長久手岬までの散策をしたりして海岸線の景観を楽しむ。しかしながら曇天なうえ、霞がかかっており、期待した白神山地の方の遠望が利かなかったのは残念であった。

前回の報告書にも記載したが、秋田には「菅江真澄」の碑が広範囲に建立されている。特に男鹿半島には多く、ここ入道崎にも「菅江真澄の道」の案内板が置かれていた。

帰りのタクシーは私以外予約した客がいなかったため、起伏のない高台を通る道を別邸つばきに向かう。

交通の便が悪いため、他に行く時間もなく、早い時間であったがホテルに入る。

生和さんからはこのホテルはあまりおすすめではないので、ご主人の単身赴任で住んでいる家に宿泊する提案を頂いた。住所を調べると、前回の歩行時に生和さん宅の前を通り、10分ほど行った所にある民宿に泊まっていた。

八郎潟に住んでいるのは聞いていたがもっと北方に住んでいると勝手に思い込んでしまったのが失敗だった。せっかくのお誘いであったが、ホテルには宿泊数の変更等、対応して頂いたこともあり、ホテルに宿泊することにした。

ホテルの建物は古いが、三階建てで、1階には貸自転車屋等が入居しているが部屋数も多く、2食付きで7800円と安い。宿泊者は私一人でオナの老人が一人で対応していた。

明日は買い出しができる店が見当たらないので、スーパーで、明日の昼食と明後日の朝食及び昼食の買い出しをする。本日の歩数は11191歩。それで疲れる。明日からは沿岸は強風で雨の天気予報であるが、大丈夫か？



入道崎の灯台



水島を望む



菅原真の案内板

10月4日(火) 雨 31041歩

男鹿駅 9:07 (電車) → 9:17 脇本 10:10 (バス) → 10:47 谷地中 10:50~10:55 五里合漁港 (引継所) 11:00 ~11:50 申川 12:25~13:00 宮沢海水浴場入口 13:10~14:30 五明光分岐手前~16:20 砂丘温泉ゆめろん

予報通り朝から雨が降っている。

中継点に行くには二つの方法がある。男鹿駅発 6:30 の男鹿北線のバスで牧野入口まで行き、海岸線を約 7km 歩いていくのと脇本駅発 10:10 の五里合線のバスで行き、5 分程度の歩行で行く方法である。五里合漁港には前者の方が約 2 時間早く着く。このコースは当初予定したコースでもあるので、天気が良ければ選択肢の一つであったが、この雨では躊躇なく後者の行程を選択した。

10 人ほど入るといっぱいになってしまう脇本駅の待合所で雨宿りをしながらバスを待っていると、校長先生と担当の先生に引率された小学 3 年生およそ 25 名が来た。社会総合の授業で野外授業に来たという。私が神奈川県から来たという、「神奈川県はどこにあるか知っている人?」「神奈川県には横浜がありますね」等、生徒に質問と説明をしていた。雨の中でも屋外授業を行っているようだ。

バスの中で雨具を着たりショパツをつけたり準備していると、運転手に下車するバス停に着いたことを告げられ、慌てて下車したため、バスに傘を置き忘れてしまった。これは大失敗で、レインコートやザックをしていたにもかかわらず、雨の中の歩行で、着衣やザックの中の書類類が濡れ、宿舎についてから、乾燥するのに苦戦した。

中継点の寂れた五里合漁港は誰一人おらず閑散としていた。国道 101 号線はこの漁港からは海岸線から離れて進む。たまに車が通行する以外人家もない所が多く、道に沿って設置されている風車の回る音だけが聞こえる。途中道路の上にイノシシの死体が残されていた。道路を横切ろうとした際、車に轢かれるようだ。



中継点 五里合漁港



風力発電が続く



交通事故?のイノシシ

東北西海岸での歩行では毎回、雨中での昼食所と休憩場所の選定に気を遣う。今回のコースはバスの通行もないため、バス停も使用できず、昼食は道路から外れた神社まで行き、神社の軒下を予定したが、運よく申川公園の奥に屋根付きの東屋が見つかった。その他の休憩所は半壊のビニールハウスの利用させていただいた以外、多少の雨風は防げる木陰でとるしかなかった。

申川を過ぎると宮沢海水浴場入口と美野地区の 2 か所にわずかな人家があるだけで、その他は畑の中の物置風の建物だけである。畑の中の直線的な単調の道を黙々と進む。メロンロードの始まるところで、右に直角に曲がり、20 分ほどで今

夜の宿泊所、「砂丘温泉ゆめろん」に着いた。

「ゆめろん」は三種町健康保養施設となっており、丘の上の広大な敷地内には温泉施設以外に総合交流ターミナル等の建物があり、一般のホテルとは趣が異なる。「ゆめろん」も新しく大きな2階建ての建物であるが、シングル部屋は2室、その他14室しかない。うち1室は70帖の大部屋である。温泉に入っている客も入浴用具持参で地元民と思われる人が圧倒的に多い。素泊まりで予約したので、夕食はレストランで摂ったが、朝食は提供していないので、前日買い出ししたものを部屋で食べる。



休憩所として利用したビニールハウス



畑のなかの1本道を行く



砂丘温泉ゆめろん

10月5日(水) 曇り 34604歩

ゆめろん7:45~8:15 釜谷浜海水浴場→8:45 三輪浜田風力発電所→10:00 途中→途中→

11:00 JAXA 吹っ試験場→12:10 ジオパーク 12:40→13:30 はまなす展望台 13:50→15:00 ホテル着

当初ここからバスも運行している男鹿街道を北上して、能代へ行くコースを予定していた。しかしながら標の掲示板で、この近くの釜谷浜海水浴場が環境庁認定の「海水浴場百選」に選ばれていて、ここを出発点として、クアオルト(気候性地形療法)の体験を実施している写真が掲示されていた。その写真に触発され、曇り空であるが、雨の心配はなさそうなので、このコースに行くことに変更した。

釜谷浜海水浴場は期待にたがわず、雄大な風景が広がっていた。砂丘に風車の塔が延々と続き、南方には男鹿半島とりわけ男鹿三山と寒風山の立派な雄姿が目につく。一方北方には能代の港の先に白神山地が連なっていた。



クアオルトの案内



釜谷海水浴場より男鹿半島を望む



能代方面を望む

砂と雑草が混在する道は轍の跡を踏みながら行くが、海は荒れて波しぶきが飛んでくるし、砂に足を取られ疲れる。しかし昨日海も望めずひたすら歩くことに終始したため、展望を楽しみながら歩く。

この浜辺沿いの道は「東北自然歩道 秋田」の「砂丘とメロンの香るみち」となっていて三種浜田風力発電所までは砂浜に沿って続く。海辺の路はまたごみの道でもある。海岸に打ち上げられたプラスチックの破損した漁業用具が散乱している。砂浜の道が無くなるとやや陸地側の松林の中を通る「先人の足跡風の松原のみち」になる。この道はその名の通り、松林の中の展望が効かない1本道であるが、時々海岸への枝道があるので、海岸に出て、風景を確認する。目的地がどんどん近くなるのが実感され、疲れも和らぐ。

春の歩行時は単調な道でも道端の花を探しながら歩行する楽しみがあったが、この時期の松林の中には野花は全く見えず根元にエカガヤの気が植林されているだけである。計画時から分かっていたので、対策として今回は、山の歌をはじめ、



昔、いろいろなジャンルの曲を 200 曲以上録音したウォークマンを持参し、歌を聴きながら歩行した。



砂交じりの海辺の道



単調な松林の一本道



風の松原の整備表示板

今回事前に地図を見ていて、JAXA ロケット実験場が能代の海岸線にあることを知った。能代市は JAXA の研究施設がある 2 市 3 町が「限りない宇宙への夢とロマンを求め、ユーモアとパロディの精神で建国」した銀河連邦国家の一員である。帰宅した翌週の 13 日には鹿児島県内之浦で打ち上げたイプシロンの打ち上げが初めて失敗し、今後の日本の宇宙開発への影響を懸念する記事が新聞一面に大きく報道されていた。一方翌 14 日の毎日新聞の神奈川版には JAXA の能代ロケット実験場で小型ロケットの打ち上げ成功の記事が掲載されていた。ここでは小型ロケット故、宇宙まで飛ばすことはできず、一般の関心は低いですが、廃材による固体燃料を液体の酸化剤で燃やすハイブリットロケットとして、環境に優しいロケットの開発等を行っているという。同一機関で同一時期に「失敗」と「成功」の発表が行われるのは珍しい。

ここまで来れば能代港は近い。「東北自然道 秋田」の「風の松原の道は」ボランティアの人たちにより整備されていた。その後、東北自然道と別れ、左折し、能代エナジウムパークに向かう。

能代エナジウムパーク沿いには真っ赤な実を鈴なりにしたハマナスが目につく。7 月の歩行時は花の開花が始まったばかりであったが、咲き遅れた花がこの時期まで一部残っていた。エナジウムパークに入ると久しぶりに自動販売機が見られ、冷たいコーヒーを一気に喉に流し込む。ここで昼食を取る。広大な敷地には「PR 館～原始回帰～」 「熱帯植物園」 「能代ねぶながし館」さらには冒険広場塔等が併設されており、『人・自然とエネルギーの調和』をテーマとしている。「ねぶた」あるいは「ねぶた」といえば青森県の専売特許だと思っていたが、東北地方の風習である夏の農作業の妨げとなる眠気を追い払う行事で「眠り流し」から来ており、この地では「ねぶながし」と呼んでいる。ねぶながし館には城郭型でその頭頂に巨大なシャチ飾りをもつ、灯籠と「天空の不夜城」の灯籠が天井近くまでの高さで設置されていた。



JAXA 実験場正面入り口



エナジウムパーク PR 館



ねぶながしの灯籠

能代漁港は埋め立て地の陸地側に作られた南北に長い港である。逗留されている船舶は、船名からして漁船であろうがほとんどが、モーターボートのような船体で、小型のものが圧倒的に多い。大型船がほとんど見られないのは近海での漁業を主に行っているのであろうか。

100 段のせまい階段を上り、はまなす展望台に立つと男鹿半島から今回の目的地の「道の駅はちもり」までの海岸線が一望できた。しかし白神山地は相変わらず雲の中である。防波堤をキャンパスとして、250 点を超える個性的な壁画が描かれている「はまなす画廊」は能代の新名所になっているという。ここから駅近くのホテルには風の松原を横断して行く。

この道はブナの林が続き、松林の中だけを歩いてきたため、新鮮で、久しぶりに山道を歩いている気分させられ気持ち良い散策コースとなった。後半はゆっくり見学をしながら時間を費やしたが、ホテルには15:00に着いた。

能代市はまたバスケの街でもある。高校バスケの名門である「能代工業高等学校」があり、田臥勇太をはじめ、多くの逸材を輩出している。バスケの施設やイベントに、町をあげて応援と町おこしに活用していることが伺える。



能代漁港



はまなす展望台



風の松原内のブナ林

10月6日(木) 曇り時々晴 38567歩

ホテル6:45~7:00 能代大橋~7:25 国道143号線との合流点~8:25 菅原神社~8:45 道の駅みねはま~

9:45 ひまわり畑~10:40 蝦夷~10:50 白神温泉入口~12:05 展望台 12:30~12:35 分岐~

13:05 八森駅 14:03→14:29 能代駅~14:40 ホテル

今日の予定したコースには時間的に合った場所に宿泊所が見当たらず、能代に戻り、同一ホテルに連泊することにした。但し五能線は夏の集中豪雨により、線路設備等に大きな被害が発生し、元々少ない便数が更に減便し、バスでの代行運転が導入されていた。行く直前の9/28になって、予定していた15:46 八森→16:11 能代の便も欠便となってしまった。その後の岩館発16:19はバスの代行便で、天候によっては欠便になると注意書きがしてあり、時間的には早い出発となるが、岩館発13:53に間に合うよう計画を変更した。

出発時には夜明けの空にうっすらと太陽が見えたが、40分ほど歩くと一時的だが小雨となった。昨日、念のため購入した傘が早速役に立った。気温は9℃と肌寒い陽気である。3日目にして初めて、人家の密集した国道101号線に行く。この人家も国道143号線との合流地点を過ぎると、一気に少なくなり、水田が広がる田園地帯となる。水田地帯には多くの溜池があり、アオサギやマガモ等の水鳥が池にやってきていた。

この区間の海沿いには「東北自然歩道のポンポコはまなすの道」が旧能代温泉前バス停より東八森駅近くまで続くが、海岸線には竹生川を渡る橋がないことなどより、101号線を選択した。また私の富山から始まった日本海側を北上する歩行は日本各地の庚申塔を追った旅でもあり、今回のコースでは武生鎮守の菅原神社に庚申塔があることを知ったのもこの道を選択した理由の一つであった。ネットの記事に出ていたように菅原神社には、「庚申」が刻字された庚申塔が社の横に鎮座していた。

のどかな田園地帯の中に立つ「道の駅みねはま」はポンポコ山公園の一角に設置されている施設の一つである。公園の海岸寄りには大間越街道が北上しているがこの道も沢目駅の手前で行き止まりとなり101号線に戻る。



能代大橋より能代港を望む



黄金色に輝くに水田



道の駅みねはまの看板



沢目の村落を過ぎるとまた人家が途絶え、水田地帯が続く。グーグルマップでは人家が途絶えたあたりに水沢農地・水・環境保全会のひまわり畑が広がるはずであったが、一面の稲作でその面影は全くなかった。五能線はこのあたりから国道 1101 号線に並行して走るようになる。

63 号線（常盤峰浜線）との合流地点に「蝦夷倉遺跡」の表示板が設置されていた。「この場所の黒色（腐植 I 土壌には、縄文時代後期の土器類や、方形の竪穴式住居跡、平安時代のものと思われるかまど跡や土師器、須恵器片等が包含されている」という。

八森駅付近から始まり、国道 101 号線を見下ろしながら山側の高台を南下し、日本海の展望が良いという、町道ビューシーラインとの合流点付近にはやや広めの草地があったので、休憩を取る。雨が降っていなければどこでも休憩所になるのがうれしい。東八森駅を過ぎ、白滝川を渡り、5 分ほど行った所にあるローソンで昼食を入手する。12 時少し前で、丁度良いところにコンビニがあった。

泊川を越えれば海が迫り、坂道を登っていくと鹿の浦展望台がある。高台にあり、海岸線が一望できる。展望台には東屋が建っているので、そこで昼食を摂る。昼間になっても気温は上がらず、屋根はあっても周りが囲まれていない東屋での昼食は体が冷えてき、早々に食べ終えた。

展望台から大きく回ったのち、椿漁港まで下り、八森の町並みに行く。八森駅には出発時間の 1 時間前に到着した。八森駅の待合室は白神八峰商工会の建物の端に併設されており、だれもいない中、持参した文庫本を読んで過ごす。

来た電車は 1 両編成でマカカと言っていたが、運転手と車掌が乗っているだけで乗客は一人もいなかった。時代の変化や過疎化の進展もあるだろうが、運転本数が少ないのがかえって不便で、利用客が減っていくのであろうか？

翌日利用予定の夜行バスの発着所は駅から離れた場所にあるので、能代駅に到着後、下見をしてからホテルに戻った。



鹿の浦展望台より男鹿半島方面



展望台より白神山地方

10月7日（金）曇り後雨 25060 歩

能代駅 7:32→7:58 八森駅~8:25 はちもり観光市~9:00 白神スフィンクス像~9:50 立石~10:10 灯台~

11:40 道の駅はちもり 12:30~13:15 岩館駅 13:53→14:29 能代駅 18:30~

19:30 能代バスステーション（夜行バス）20:30→翌10月8日7:25 池袋

入線してきた電車は学生で混雑していたが一人を除いてすべての乗客は能代駅で下車したので、また貸し切り電車に乗ったような気持ちで、出発点の八森駅に向かった。

駅から海岸線に出て、護岸用に整備されたコンクリート製の道を八森港にある「はちもり観光市」に向かう。観光市は土・日の 9:00~の開催なので曜日的にも時間的にも対象日でなく、白い人魚の像だけが広場に建っていた。八森は秋田音頭の冒頭で「秋田名物八森ハタハタ・・・」と唄われたように、昔からハタハタ漁で有名な地域である。50 年代に入り、一時激減し 3 年間自主禁漁を行った後、再開した際、わざわざ正月秋田まで食するために来たことは、前の報告書に記載した。たとえ市が開催されていても時期が早いため、ハタハタは見えなかっただろう。

市場の先の小さな入り江で、漁師の人が、採ってきた魚を漁船から、水揚げしていたので話を聞く。60cm 以上ある立派な鮭や鯛が網にかかっている。写真を撮らせてくれというので最初は「構わない」と言ったが、直ぐに「止めてくれ」という。

理由を聞くとヒラメ漁が目的であるので、鮭を獲ることは密漁になり、写真を撮るのはまずいという。見たところ、ヒラメは見え、鮭が圧倒的に多かったが？また磯では釣り人がアオリイカを釣っている。イカ釣りというとなりの操業と聞くと、この付近の磯では、夜ではなくこの時間帯でも釣れるらしい。岩礁帯に入ると溶岩と凝灰岩でできている白神のスフィンクスが姿を現す。そのつもりで見ればなんとか見えないこともないが、無理やり付けた名前のような。



八森の海岸線



八森港の人魚像



白神のスフィンクス

大間越街道が国道 101 号線に合流する地点に向かって坂道を登っていくと高台に芝生が植えられた公園がある。そこに瀧安の乙女像が建立されている。瀧安の乙女像は 1983 発生の日本海中部地震の津波で犠牲になった方々の供養と地震による被害を後世に伝えることを祈念してものです。鹿の浦展望台から、ここまでは八峰白神ジオパークでは「大地の動きと防災を学ぶ」モデルとなっている。

101 号線に合流後、五能線の架線橋の手前で、また大間越街道になり、海辺の小村の方に下っていく。小入川の中に入って川の中を見ている人がいる。川の生物か水質の調査であろうか。その頭上には五能線の鉄橋が走っている。



瀧安の乙女像



101 号線合流地点より岩館漁港を望む



小入川と五能線

川を渡って直ぐ日本海が形成されたころ、活発な海底火山によってできた立岩がある。その前には菅江直澄の説明版が掲示されており、彼が描いた絵図とともに岩についての記述が記載されている。またこの岩には次のような伝説が残されている。「昔、笛が上手な若者がいて笛吹きに夢中になっていた。若者に夢中になっている乙女がいたが、若者はそれにきかず、乙女は海に身を投じてしまった。それに気付いた若者は乙女を想い毎日笛を吹き続けているうちに立岩になってしまったという。」

岩館漁港でも漁船から魚を水揚げしていた。この船の漁は鰯やスルメイカ。問題なく撮影させてくれた。八幡神社の石碑の一つが庚申塔ではないかと期待していたが、庚申塔ではなかった。これを確認するため、この道を選択したのだが、残念であった。結局今回の歩行では、自然歩道等、人家がない道を選んだことにもよるが、庚申塔は 1 基しか出会わなかった。

駅で確認すると、帰路に利用する 101 号線から直接駅に着く道はなく、手前から線路を横断し、旧道にでてから駅に向かう必要があることが分かった。駅前の道から急坂を下り、海岸線に出る。岩崎海岸ではデイサイトと呼ばれる白っぽい岩の帯が見られる。これは地下のマグマが地層を割りながら昇ってくるときにできる帯で、マグマの通り道ともいえる。



チゴキ崎の高台にあるチゴキ崎展望台には灯台もあり、広々として、気持ちの良い場所である。



立岩



多量な鮭の捕獲



チゴキ崎の灯台

あとは五能線の陸橋を渡り、国道 101 号線に合流すれば、中継点の「道の駅はちもり」まで残りわずかである。2016 年に富山中伏木駅から始まった日本海側の海岸線を北上する歩行もこれが最終だと考えると、少し感傷的になる。

「道の駅はちもり」までは過去の歩行を思い出しながら歩いた。

「道の駅はちもり」は食堂が 1 軒とトイレがあるだけの小さな道の駅である。

昼近くにもかかわらず客の姿は皆無である。食堂の中に入るとご主人が魚をさばいている。聞くと「コメジ」だという。ホンマグロの小さいものをメジマグロというが、この主人の説明ではこの付近ではマグロをメジと呼び 30k g 以下をコメジと呼んでいるとのこと。八森の漁師の方も「コメジ」が網に掛かると言っていた。店のメニューには記載していなかったが、漁獲した時だけ提供するそうで、注文した。

マグロのさばき方は片身を包丁でさばくが、反対側は少し包丁を入れるだけで、あとは魚の重量で骨から離せば、骨に身はほとんど残らないことをさばきながら実演したり、近くの久六島(?) 近辺で摂れるサザエやアワビは特に大きい等色々説明をしてくれる。山盛りに盛ってくれた上に少なくなるとさばいている中落等を更に追加してくれ、大盤ぶるいである。食感の本マグロほど脂はのっていないが酸味もあり。獲りたての新鮮な味は十分満足できた。店の裏側に白神山地を水源とし津軽の殿さまも絶賛したという「お殿水」が湧いている。中継点の証は奥さんに撮ってもらった。

帰路は 101 号線を歩行したので、ゆっくり歩いたが 45 分で岩館駅に到着した。

能代駅では予行バスの発車時間まで、6 時間もあつた。電車に乗っている間に雨となり、またスマホで探しても適当な喫茶店が見当たらない。駅の待合室にはテーブル付の座席もあり、人もほとんどいなかったので、歩行記録を纏めながら、そこで時間をつぶす。

発車 1 時間前に能代バスターミナルまで、雨の中を行つたが誰もいない。心配になったがバスは時間通りに来た。

始発からの乗客は私一人であつたが、途中から乗車した人が多く、ほぼ満員になった。乗客の男性は家族連れの男性をひとり見かけただけで、若い女性が圧倒的に多かつた。往時の東京駅のバスステーションでは男性もかなり見かけたが？



ひっそりとした「道の駅はちもり」

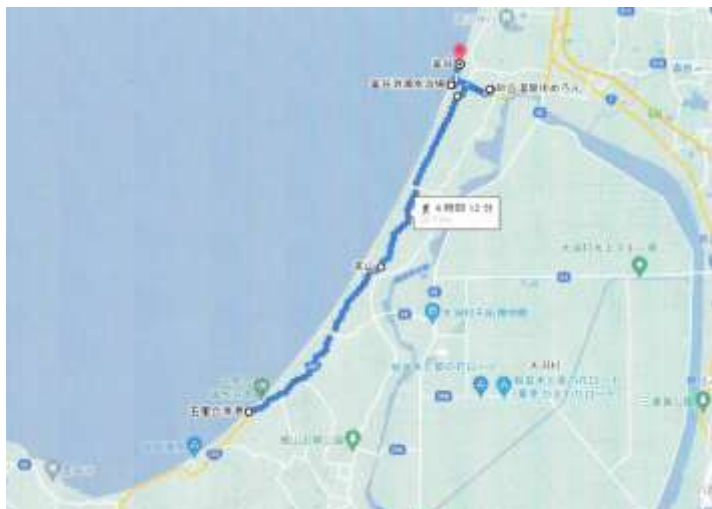


コメジをさばく



中継点到達の証

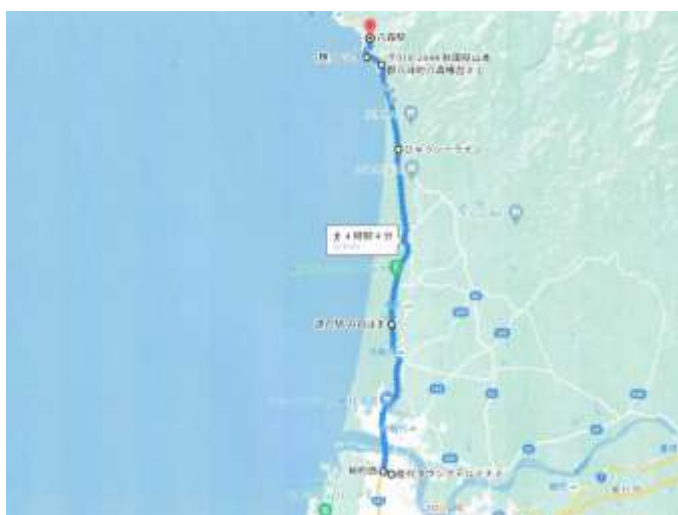
7 歩行コース地図



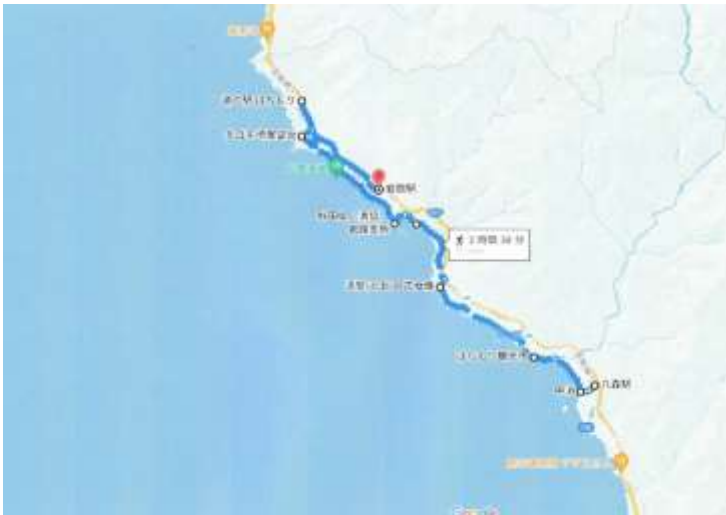
10月3日



10月4日



10月5日



10月6日